

宮城県大崎保健所栗原支所 感染症発生動向調査情報

令和6年10月31日 発行

1. 発生動向

上段は発生患者数、下段は定点当たり

疾病	疫学週				判断基準(定点当たり)		
	40週	41週	42週	43週	警報レベル		注意レベル
	9月30日～10月6日	10月7日～10月13日	10月14日～10月20日	10月21日～10月27日	開始基準値	収束基準値	基準値
インフルエンザ#	0	0	1	0	30	10	10
	—	—	0.33	—			
新型コロナウイルス感染症#	25	25	19	15	-	-	-
	8.33	8.33	6.33	5.00			
RSウイルス感染症	2	0	0	1	-	-	-
	1.00	—	—	0.50			
咽頭結膜熱	0	0	0	1	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	0	1	3	8	4	-
	—	—	0.50	1.50			
感染性胃腸炎	4	4	0	8	20	12	-
	2.00	2.00	—	4.00			
水痘	2	0	0	1	2	1	1
	1.00	—	—	0.50			
手足口病	19	17	40	34	5	2	-
	9.50	8.50	20.00	17.00			
伝染性紅斑	0	0	0	0	2	1	-
	—	—	—	—			
突発性発しん	0	0	0	3	-	-	-
	—	—	—	1.50			
ヘルパンギーナ	0	1	0	1	6	2	-
	—	0.50	—	0.50			
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	6	2	3
	—	—	—	—			
眼科定点	急性出血性結膜炎				定点設定なし		
	流行性角結膜炎				定点設定なし		
基幹定点	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)				定点設定なし		
	無菌性髄膜炎				定点設定なし		
	マイコプラズマ肺炎				定点設定なし		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				定点設定なし		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)				定点設定なし		
拡張疾患	マイコプラズマ肺炎(小児科)				0		
	川崎病				0		
	不明発疹症				0		

栗原支所管内定点数: #は3施設。それ以外は2施設

2. 施設対応状況 (過去2週間における支所対応状況) ◎:複数対応中、○:対応施設あり、-:対応無し

施設区分	保育所	高齢者・障害者施設	医療機関
対応状況	◎		
備考	手足口病		

*「1.発生動向」の解釈について

- ・上段は圏域全体で一週間に診断した患者数
- ・下段は一つの定点(医療機関)において一週間に診断した患者数
- ・下段の定点当たりの数値を表右側の判断基準と照らし合わせて評価してください。

3. 栗原支所より

【 定点把握対象疾患 】

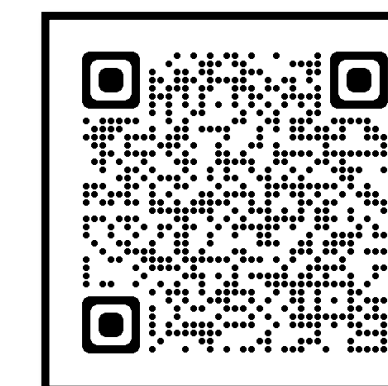
- ・新型コロナウイルス感染症はやや減少しています。
- ・季節の変化とともに、各種感染症の発生が見られます。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は発生が継続しています。感染対策に努めましょう。
- ・手足口病の発生は警報レベルが継続中です。

【 集団発生情報 】

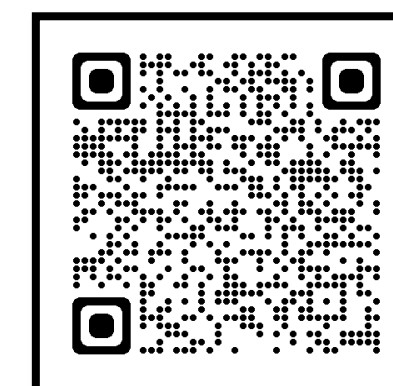
保育所から手足口病の集団発生がありました。感染対策に努めましょう。

【 感染症コラム～インフルエンザ～ 】

- ・インフルエンザウイルスを原因とする急性の呼吸器感染症で、冬季を中心に流行します。
- ・症状としては、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻汁・咳などの呼吸器症状がこれに続きます。いわゆる「風邪」と比べて全身症状が強いことが特徴です。
- ・主な感染経路は、咳、くしゃみ等による飛沫感染や、物に付着した飛沫に触れた手指を介した接触感染もあります。
- ・ワクチンにより重症化を予防できます。国内の研究によれば、65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。
- ・また6歳未満の小児を対象とした国内の別の研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されています。流行が予想されるウイルスにあわせてワクチンが作られるので、毎シーズンの接種が重要です。
- ・マスクの使用、手洗い・消毒の徹底、換気の実施、ワクチン接種等により予防に努めましょう。また、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐことも重要です。



感染症情報 ←



性感染症検査 ←

大崎保健所 栗原支所 疾病対策班
 ☎0228-22-2117 ☎0228-22-7594
 HP:https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khhwfz/ktindex.html